



# 門川市政16年の功績と評価

## 市民とともに市政推進

### 人口減対策や都市成長戦略を次代に託す

●中京区

#### 津田大三議員

■津田大三議員（質問） 8月23日、市長は次期市長選挙に出馬しないと発表。就任初期はリーマンショックの影響や市職員の不祥事などの問題に、自民党議員団とも連携し、解決に取り組まれました。当時は大きな課題として、同和問題、景観と観光の調和、財政

でも新条例を施行し、都市格を大幅に向上。文化庁移転や観光客の増加なども達成されました。この16年間の総括と今後の展望、期待について伺います。

■門川大作市長（答弁） 任期中、市民と共に市政を推進。財政危機や自然災害、コロナ禍に対応する中、現場主義を徹底し京都の安心・豊かさを追求。行財政改革や京都経済の活性化、文化庁や京都芸大の移転を実現し、京都の魅力を高めました。今後の課題として人口減少対策や都市の成長戦略が重要。市民との連携、府市協調を強化し、京

がありました。同和問題では市職員の不祥事や先行採用の課題に対応し、大きな改革を実施。京都市立芸術大学の開校や京都駅東部地区の再生などの成果を上げ、景観に関し

都の強みを活かして更なる発展ができることを確信しています。

#### キックボードの普及と課題

■津田大三議員（質問） 自転車や電動キックボード等の走行環境とルールの徹底、歩行者の安全確保について、まず大きな課題であった放置自転車問題は、駐輪場整備やマナー啓発活動により大幅に改善しました。しかし、新しい乗り物である電動キックボード等の取扱いは明確でなく、事故や違反が増加しています。パリではキックボードの事故が多発し、シェアリングサービスが廃止されたほど。現在、自転車違反者への「青切符」導入が検討中であり、ルール

の理解と徹底が不可欠。新しい乗り物の利便性を享受しつつ、歩行者の安全確保のために、市民が安全に移動できる環境整備とルール徹底への取組を伺います。

#### 坂越健一副市長（答弁） 放

置自転車対策や走行環境整備、安全教育を推進し、自転車事故は約8割減少しました。しかし、歩道走行のルール徹底が課題です。京都府警察と連携し、交通ルールの啓発や「青切符」の導入を注視

します。電動キックボード等の普及に伴い、その走行ルールや特徴を広く周知し、利用者や歩行者の安全確保のため、ホームページや交通安全市民運動を通じて啓発活動を強化します。

#### 【代表質問】

9月市会

（10月2日）

## 市民の足を徹底して守り抜く

### 市バス地下鉄事業について

#### 運賃改定を避けるべくあらゆる努力を

●西京区

#### 田中明秀議員

■田中明秀議員（質問） 令和4年度決算、そして今年度に入つての状況をどのように評価されているのか。市バスの運賃改定についての現状認識も改めて伺います。

市バスの運賃改定に関して、市バスのお客様数は今年度に入り一定回復しているものの燃料単価の上昇や人件費高騰、さらには深刻な担い手不足など大変厳しい経営状況です。

市バスネットワークはコロナ前においても4分の1の黒字路線が4分の3の赤字路線を支える構造であり、バス路線を維持することが我々の使命です。そのためには運賃改定を見込まざるを得ない状況に変わりはございませんが、引き続き運賃改定は「最後の手段」との認識の下、あらゆる経営改善に取り組ん

でまいります。

#### 京都市創造都市圏・環状ネットワーク構想について

■田中明秀議員（質問） 西京区民の長年の悲願である、洛西での交通ネットワークの充実にもつながるものであり、夢と希望の持てるものです。

本構想は20年、30年先を展望し、将来にわたって活力と魅力あふれる京都をつくっていくものであります。その実現に欠かせない先進技術の活用に向けた検討を進めるとともに、京都府や周辺市町との緊密な連携、国の協力・支援の下、市内周辺部及び近隣市を含めた創造的な都市圏の創出に向けて、着実に歩みを進めてまいります。

門川市長には西脇知事と共にしっかりと道筋をつけていただきたいと思えます。改めてこの構想についての決意を伺います。

■門川大作市長（答弁） 本構想は、西脇知事とも合意し、私の4期目の公約として掲げたものであり、京都市基本計画などに位置付けるとともに、今年8月の知事との懇談においても改めて認識を共有したところであります。

#### ●津田大三議員の質問項目●

- 1 令和4年度決算について
- 2 門川市長 4期16年の総括と今後の京都市行政について
- 3 少子化対策について
- 4 障害者の介護保険への移行支援について
- 5 自転車等の走行環境整備と歩行者の安全対策について
- 6 三条大橋の改修について
- 7 後院通の無電柱化事業について



シェアリングサービスされている電動キックボード



京都駅と清水寺を結ぶ観光急行バス

#### ●田中明秀議員の質問項目●

- 1 市バス・地下鉄事業について
- 2 上下水道事業について
- 3 本市職員の能力向上の取組について
- 4 伝統産業の振興について
- 5 持続可能な環境保全型農業の推進について
- 6 京都市創造都市圏・環状ネットワークについて

# 保育・教育環境のさらなる充実を

## 全国平均以上の保育士の給与維持 地域密着型保育園で子育て世帯支援を

●伏見区

### みちはた弘之議員

■みちはた弘之議員（質問）  
令和5年に「ごども家庭庁」が設置され、「ごども基本法」が施行されました。京都の保育三団体は本市の保育行政を評価し、要望書を提出されました。主な要望は施設整備の補助金拡充と職種の別の人件費の充実です。京都市の保育・教育環境の一層の充実が求められている中、具体的な施策や方向性を伺います。

### ■門川大作市長

（答弁）新しい人件費補助金の制度では、旧制度の問題点が改善され、全国平均を上回る保育士の給与水準が維持されましたが、約3割の園で処遇の見直しが行われている事実もあります。各園からの要望に基づき、補助の控除割合を



保育の質の向上と環境整備

拡大することで、保育士待遇に加えて施設の修繕への更なる対応を進める方針です。今後は、年内には具体的な補助の拡大幅を明示し、対策の充実を図り、さらには、マイ保育園制度を通じて地域密着型の保育園の役割を強化し、子育て世帯の支援を具現化する計画を進めています。

### ICT機器の積極活用による学習支援を

### ■みちはた弘之議員（質問）

子ども自身が学習意欲を持つように、支える環境づくりが大切であると考えます。今後の取り組みに当たり、ICT機器を含め、子どもの困難を軽減し、持てる能力を引き出すことのできる有効なツールについて、教育委員会として先進的に研究するとともに、各学校へ積極的に取り入れていただきたいと思えます。考えを伺います。

### ■稲田新吾教育長（答弁）

インクルーシブ教育は、全ての子どもが共に学ぶ理念に基づき、一人一人の教育的ニーズを満たすための支援が不可欠です。音声読み上げソフト等のICT機器の利用は、特別支援を必要とする児童生徒にとつて有効であり、20種類以上の支援機器を学校へ貸し出

### ●みちはた弘之議員の質問項目●

- 1 更なる保育の充実について
- 2 環境教育について
- 3 インクルーシブ教育について
- 4 救急需要の増加に対する取組について
- 5 大阪・関西万博について

しています。GIGA端末や読み書き支援アプリの実践的研修も進めており、これらのツールをより身近にするよう

特に、デジタル耳栓や特定の文房具など、年内に学校に配置する予定です。今後、新しい機器やアプリの効果を検証

し、効果的な支援の研究を進めていくことで、全ての子どもへの学習に対するサポートを推進してまいります。

## 【代表質問】

9月市会

(10月2日)

# 京都市子育てポータルサイトを構築

## 若者世代・子育て世代の支援充実 子育ての不安・疑問の解消を目指す

●北区

### 谷口みゆき議員

子育て世帯向けデジタルツールを活用した子育て支援策の情報発信

### ■谷口みゆき議員（質問）

京都市の子育て施策や情報をすぐに調べることができる即効性のあるデジタルツールと子育てに係る不安や問合せに24時間対応できるAIチャットボット等の活用が必要であり、効果的な情報発信として新たな「京都市子育てポータルサイト」の構築を求めます。

### ■門川大作市長（答弁）

多岐にわたる施策の中から必要とする情報を探しにくい課題の解消を図るとともにAIチャットボットなどの利便性



「子どもまんなか社会」の実現に向けて

### 誰でも産後ケアが受けられるよう条件を撤廃

■谷口みゆき議員（質問）「スマイルママ・ホッと事業」として、産後心身ともに疲れた時、育児へのアドバイスがほしい時に本人や家族が無条件で申し込める体制が必要。これから京都市で子どもを産み育てようとされている方の不安感を無くし、誰もが安心して子育てできる環境づくりの事業拡大を求めます。

### ■門川大作市長（答弁）

事業者との協議を早急に進め、受入体制を強化することで、希望される全ての方が産後ケアを受けられるよう対象者の要件を撤廃します。準

備に直ちに取組み、令和6年度早期に拡充します。

### 子育て世代・若者世代の住まいの創出に向けた空き家活用の取組について

■谷口みゆき議員（質問）人口流出が課題である中、若者・子育て世帯の市内居住に向けて、空き家が新たな住民の受け皿となるよう取り組みには、空き家活用の機運醸成が必要と思えますが、考えを伺います。

■門川大作市長（答弁）既存住宅について安心して相談できる「安すまパートナー」制度を構築するほか、金融機関や住宅事業者と連携し、既存住宅カテゴリーをすることで住宅ローンを受けやすくし、既存住宅を安心して活用できる仕組みを構築し、若者・子育て世帯が選択できる住まい先の供給を促進していきます。

### ●谷口みゆき議員の質問項目●

- 1 デジタルツールを活用した子育て支援策の情報発信について
- 2 誰もが産後ケアを受けられる体制の構築について
- 3 子育て世代・若者世代の住まいの創出に向けた空き家活用について
- 4 市民の防災意識向上への取組について
- 5 北山3学区（小野郷、中川、雲ヶ畑）における光回線整備について（要望）

